

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング 発表資料

活動団体名：**静岡県富士宮市**

活動地域：**富士宮市全域**

活動におけるテーマ・キャッチコピー

「富士山と水」を生かした

持続可能なまちづくり

「世界遺産富士山のまち」富士宮市を環境で元気にする

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

富士宮市 地域循環共生圏

世界遺産富士山のまち富士宮市を環境で元気に! 歴史・文化×産業・観光×環境

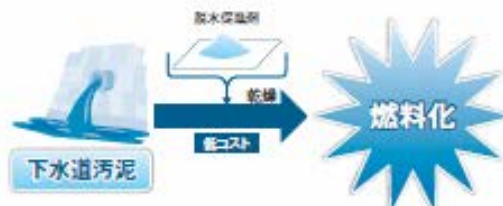


ESG金融 (静岡県SDGs × ESG金融連絡協議会)

富士宮市地域循環共生圏

下水汚泥を低コストで 固形燃料化するための実証実験

【地域の廃棄物】を【地域循環資源】に



星山エネルギー拠点化プロジェクト

地域資源を活用し、持続可能な「循環力があるまちづくり」を目指す



おいしくてつながる地産地消

地産地消・食育・食品ロス・容器包装リサイクルなどの課題を「おいしい」でつなげて地域での解決を目指す



富士山の自然を守り、
その恵みを産業で活かす
ネットワークを構築し、
持続可能なまちづくりを目指す！

富士山と水



より地域の為になる電力を 選ぶ 育てる

地域の電気を選ぶ。環境意識が向上することで
資金、資源、人材の地域循環を目指す

富士宮市におけるエネルギーの地産地消の構築

発電事業者・
新電力への支援

市内事業者
への支援

市民等への
啓発

富士宮市創エネ・省エネ相談センター(仮)

再生可能エネルギーを軸とした 地域活性化プロジェクト

木質バイオマスや小水力発電等の再生可能エネルギーを
軸とした地域活性化を目指す



地域・市民・企業の連携循環プロジェクト

菜の花の栽培を通じた地域資源循環モデルを構築し、
新たな地域の特産として観光客の増加、環境教育、雇用拡大を目指す



水のまち富士宮 ふれあい大作戦

地元「愛」にあふれる市民が「One TEAM」で取り組む商品開発で
持続可能なまちづくりを目指す



昨年度の取組の概要（仮説と実践、気づき）

当初予定していた取組

- 組織づくり
多様な主体が課題を共有し、既存団体との連携や協働を通じた実効性のある協議会等の設立
- 人材育成
地域コーディネーターやキーパーソンの発掘
- テーマの「富士山と水」を環境保全の象徴としてブランド化を検討

実践の中での気づき

- 「富士山と水」をテーマとしたことで、想定以上の多様なメンバーを集めることができた。
- 想定以上に地域の課題や資源の存在に気付くきっかけができた。
- 地域課題の解決に対し多くの提案が集まり、異業種・異分野の立場で意見交換することで、それぞれの強みや付加価値を共有することができた。

実際に行った取組

- 富士宮市のプラットフォームとなる「富士宮市地域循環共生圏推進協議会」を設立した。
- 地域課題を解決するための新たな事業や仕組みについて、7つの部会（プロジェクト）を立ち上げた。
- 多様なメンバーの意見集約を円滑に行うため、静岡県が認可した専門指導機関を協議会の事務局に迎えた。

事業のタネ3つ

- **林業の六次産業化**：化石燃料に代わる地域の木材を活用した木質バイオマスボイラーの導入。森林資源を生かした体験ができる滞在型観光など、観光客の増加を目指す。
- **農業用水を活用した小水力発電**：再生可能エネルギーを軸に環境に配慮した持続可能な農業経営を目指す。
- **下水道汚泥の固形燃料化**：低コストで固形燃料化し、化石燃料の代替として実用化を目指す。

昨年度の取組を踏まえた課題とその対応

環境整備についての課題

- いかに新たな参加者を呼び込み、新たな事業提案を生み出せるか、富士宮市地域循環共生圏推進協議会を活性化させる機運醸成が必要。
- 協議会を動かし続ける原動力となる地域のリーダーや担い手の発掘など、人材育成が課題。
- 地域課題の解決に向けて様々な視点から取り組むためには、組織横断的な連携や調整が必要。

課題を打破するための今年度の取組

- E S G 金融と連携した事業性評価や投資喚起。
- 起業、創業支援に精通したアドバイザー等への依頼。
- 先進地事例の研究や視察研修を実施し、アイデアやイメージなどの情報共有を図る。
- 富士宮市地域循環共生圏推進協議会の活動を広く周知する。

環境ローカルビジネスの事業化に向けた課題

- 事業化に向けた資金調達の仕組みが描けていない。事業採算性などについて具体的に検討するため、専門知識のあるアドバイザーなど支援が必要。
- 現実的にプロジェクトを動かす事業主体の存在が不透明、未知数。
- 事業計画を作成する上で、地域の条件（規制や法令、合意形成など）を確認し、ボトルネックになることをあらかじめ整理することが必要。

今年度の新たなチャレンジと到達目標

新たにチャレンジしたいこととその具体的な取組

- 事業化を一つでも多く実現するため、専門家による事業性評価や起業、創業のアドバイス、資金調達の仕組みづくりなどプロジェクトの支援を行う。
- 美しい水環境を次世代へ残すため、河川のごみや生態系の問題などに取り組み、活動する様々な関係者を把握する。

今年度の到達目標

- E S G金融と連携した事業性評価や資金調達、創業支援の機能を備えたプラットフォーム体制の強化を図る。
- 河川環境に携わる関係者（保全活動や生態系に詳しい方など）や地元企業、学生などの新たなステークホルダーを巻き込んだネットワークの構築。

年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆協定締結（活動予算執行開始） ◆キックオフミーティング				現地意見交換会		◆中間報告書提出期限 活動団体成果報告書提出◆		◆成果報告会	
話を聞きに行く！		環境活動団体の課題の把握					事例研究や視察研修の検討及び実施 合同会議の開催					
地域のコンセプトを描く！			●環境の現状や課題について話を聞く									
事業のストーリーを語る！												
地域の目標を立てる！												

新規に取り組む団体へメッセージ

- 地域の強みを共感できるテーマがあると、多様なステークホルダーを巻き込みやすい。
- 多様なステークホルダーを多く巻き込むことで、様々な意見や考えを聞くことができるが、話をまとめるリーダーがいない場合、意見がまとまらず具体的な内容に踏み込めないことがある。
- 発電所建設などの事業化については、組織横断的な連携が重要。

こんなことを助けて欲しい！

- 起業や創業支援、事業化に精通したアドバイザー等を紹介してほしい。
- 人材育成についての専門家の紹介や、他の地域での事例があれば教えてほしい。
- 地域資源や課題を引き出すファシリテーターを派遣してほしい。